

## 令和6年度 横浜fカレッジ 自己評価表

### 1. 学校の教育目標

- (1)感性の向上
- (2)高度な技術力の習得
- (3)豊かな人間性の涵養
- (4)プレゼンテーション能力の育成

### 2. 令和6年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

項目	実施状況	評価
IT ツール活用による教育のDX化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Swipe Video（自由視点映像ソリューション）を全学科で導入。学科によって活用頻度やクオリティにバラつきが見られた。</li> <li>・活用頻度が低い学科については次年度以降の運用を再検討する。</li> <li>・今年度新設のヘアメイク・アイデザイン科においては、美容師国家試験実技用試験課題のコンテンツを作成し、授業内および予習復習に活用できた。</li> </ul>	○
魅力的なカリキュラムの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産学連携やインターンシップなど、学外との連携で実践的な学びを体感できる場を提供。新規連携先の開拓も積極的に取り組み、全ての学科で新規連携を実施。</li> <li>・業界のトレンドを学ぶ授業連携を実施。美容系学科では国内のみならず海外（韓国）からもアーティストを招聘し、学生が楽しくワクワクする学びを体感できるよう、学生に関心の高い技術のデモンストレーションや海外での業界動向等について学ぶ機会とした。</li> </ul>	○
教務部の組織的・機動的運営の構築、推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な学科運営を行うためのレポートラインの整備、時間効率の最適化を考慮したタスク管理について部内で検討し、実行フェーズに入った。</li> <li>・引き続き、後継者となる管理職の育成が課題であり、組織的な仕組み作りが急務。</li> <li>・校務分掌については、属人化しないよう見直しを図ると共に、年間のタスクスケジュール表を作成し、作業を見える化する。</li> </ul>	△

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・ 理念・目的・育人人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・ 学校における職業教育の特色は明確か	④ 3 2 1
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
・ 理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1
・ 各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 課題

ファッション・美容・ブライダルの各業界において、時代の潮流を読み、常に主体的に最新技術を学ぶ向上心を持った発想力豊かな人材の育成が課題。

② 今後の改善方策

学外のイベントや展示会見学、産学連携を通じて、業界への理解を深め関心を高める取り組みを推進する。また、変化する業界ニーズに柔軟に対応できるよう、教職員が積極的に業界との人脈作りを行うと共に、技術を自ら学び学生に還元する。

③ 特記事項

美容の多様化に対応し、施術者向けの検定として創設したメンズヘアメイク検定については、次年度受験対象を全学科に拡充予定。全学科に展開することで学びの幅広さを提供できる仕組みを構築する。

(2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・ 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・ 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
・ 人事、給与に関する制度は整備されているか	④ 3 2 1
・ 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
・ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1

① 課題

Swipe Video を全学科で導入できるよう整備したが、学科による活用頻度、クオリティに課題が残った。

② 今後の改善方策

活用頻度の低い学科については、次年度以降の運用を再検討する。  
効率的に運用できている事例等を共有し、よりビジュアルライズされた授業運営に深化させる。

③ 特記事項

(3). 教育活動

a. ファッションライフデザイン学科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④ 3 2 1

・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 (3) 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	(4) 3 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	(4) 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
・ 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 (3) 2 1
・ 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
・ 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1
・ 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

3D モデリング技術を学生が主体的かつ実践的に学ぶことができる環境の整備

② 今後の改善方策

アパレル商社と連携し、メタバース空間を活用した商品企画・開発・発信に取り組む産学連携プロジェクトの実施を目指す。また、アパレル関連企業との協働により、リアルな実務の体験を通して実践力を養う計画を立てる。

③ 特記事項

株式会社 OPA・有限会社やまぎん協働企画の『Sustainable Uniform Design Award 2025』において、2年連続でグランプリを受賞し、全国の OPA 各店のインフォメーション制服として採用された。また、(株)横浜高島屋 × 相鉄ジョイナス × フェリス女学院 × 横浜カレッジで、地域と連携した循環型社会実現に向けたサステナブルファッションの提案として、「YOKOHAMA MIRAI につなぐファッションショー」を横浜西口地下街で実施。ファッション業界の課題でもあるサステナブルについて理解する機会となった。

b. ファッションビジネス科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	(4) 3 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	(4) 3 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	(4) 3 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 (3) 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	(4) 3 2 1

・ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・ 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
・ 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・ 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・ 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

オムニチャネル化、サステナビリティや多様性への対応など、あらゆる購買スタイルに柔軟に対応できる実践力を持った人材育成が急務。

② 今後の改善方策

オムニチャネル戦略に関する企業連携授業の強化、サステナビリティおよび多様性への理解を深める講義の実施に加え、インターンシップや模擬ショップ運営など、実践的な学びの機会を拡充させる。また、AI やデータ分析などの新たなリテラシー教育も積極的に取り入れる。

③ 特記事項

R6 年度、株式会社パル主催「PAL Foundation Cup」全国大会に 2 名が選出され、1 名がシルバー賞を受賞。

c. ブライダル科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④ 3 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 ③ 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・ 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
・ 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・ 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1

・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 課題

協業に苦手意識を持つ学生の増加を受け、学生の変化に対応したカリキュラムの見直しが課題。  
また、対応する教員側のスキル向上のため、研修等に参加する機会を創出することも課題。

② 今後の改善方策

学生の状況を理解し、一方で、現場で求められる人材像を的確に把握し、カリキュラムの再構築を図る。  
また、教員の研修参加計画の策定も進める。

③ 特記事項

d. ビューティーコーディネーター科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

① 課題

コミュニケーション能力や課題解決力といった「人間力」の育成を意識した指導の工夫、多様化する美容業界の変化を的確に捉え、柔軟に対応する力を兼ね備えた人材育成。

② 今後の改善方策

教員の資質向上のための研修会の実施や業界動向を踏まえたカリキュラム開発など、今後も継続的に取り組んでいく。教育内容の充実と資格取得支援の両立を実現するため、カリキュラムの見直しや業界連携の強化に努め、ニーズに即した人材育成の実現がより着実に進んでいくよう取り組んでいく。

③ 特記事項

e. 美容師科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	④ 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 ③ 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

実務に即した技術の習得と現場力の向上、就職後のミスマッチによる早期離職。  
授業動画や視聴覚機器を活用した効率的で効果的な授業運営、職員の指導力の平準化。

② 今後の改善方策

体系的なインターンシップの実施に向け、実習先の開拓を継続。夏季休暇や通常授業期間外を利用し1年次のうちに積極的に参加ができるよう促していく。定期的に職員の勉強会や研修会を実施し、教授法について情報共有や意見交換の機会を設ける。

③ 特記事項

f. ヘアメイク・アイデザイン科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

① 課題

美容業界の多様なニーズに対応するため、産学連携授業を通じて実践的なカリキュラムを実施してきたが、学生が希望する職種・分野が多様であり、求人数にばらつきがあるため、安定した就職先の確保が課題である。

② 今後の改善方策

特にヘアメイク系分野の就職先を開拓し、希望職種への確実な就職に繋げていく。

③ 特記事項

(4). 教育環境

a. ファッションライフデザイン学科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 3 2 1

① 課題

3D モデリング教育や縫製技術職に対応したインターンシップの実施体制の整備と、新たな受け入れ先の開拓が喫緊の課題。

② 今後の改善方策

地元商業施設との連携を複数実施しており、今年度も継続して取り組む予定。  
3D モデリングを活用した産学連携およびインターンシップについて積極的に開拓し、学生の実践的なスキル向上、即戦力の育成を図る。

③ 特記事項

b. ファッションビジネス科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	(4) 3 2 1

① 課題

次年度以降コース別カリキュラムの運用方法を変更する計画となっているため、教室の確保とカリキュラムの再構築が課題

② 今後の改善方策

時間割の工夫や、他学科との調整を行い学内のリソースについて最適化を図る。

③ 特記事項

R6 年度は就職先の幅を広げるための施策として、ファッションショーの裏方(フィッター、アテンド、アシスタント)など新規インターンシップ先を 11 件確保。

c. ブライダル科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

挙式や披露宴に関する実習・演習を行うための施設が十分に確保されていないため、教育内容の充実に向けた環境整備が課題。

② 今後の改善方策

スペース不足への対応として、姉妹校の施設や式場等の外部施設の活用も併せて進める。また、限られたスペースを効果的に使えるよう教室運用の工夫をし、教育の充実を図っていく。

③ 特記事項

[ ]

d. ビューティーコーディネーター科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

[ 業界トレンドや技術の高度化に伴い、より専門的で多様な施術・サービスへの対応が求められるため、これに応じたカリキュラムの充実が課題。 ]

② 今後の改善方策

[ 多様な外部実習先を確保しインターンシップ先との連携を強化することで、より現場に即した技術を習得できる環境づくりを推進していく。 ]

③ 特記事項

[ ]

e. 美容師科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

[ IT 機器を使用した授業が多いため、安定したネットワーク環境が必要。学外実習先の確保。 ]

② 今後の改善方策

[ Wi-Fi ルーターの設置や設定、通信速度の向上、セキュリティ対策など、環境改善に努めていく。卒業性就職先との連携を強化し、現場で即戦力として活かせる技術の習得を目指す。 ]

③ 特記事項

[ ]

f. ヘアメイク・アイデザイン科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

専門性の高い実習授業が多いため、流し台やコンセントが設置されている教室の確保が課題。  
ヘアメイク等の現場実習先の確保、実習に出た際に必要なスキルとマナーに関する指導。

② 今後の改善方策

カリキュラムの工夫による使用教室の効率化。  
外部講師を招き実践的な授業を実施することで、学校と現場の技術のギャップを減らしていく。

③ 特記事項

(5). 学修成果

a. ファッションライフデザイン学科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	④ 3 2 1

① 課題

業界全体で採用数の増加傾向が見られ、就職内定を着実に獲得。技術職においては新規採用も増えてきているが、就職対策の強化が課題。  
3D モデリングオペレーション技術者の採用を積極的に受け入れている企業の新規開拓も急務。

② 今後の改善方策

専門職としての採用に対応できる技術力やデジタルスキルを着実に育成するため、インターンシップや外部プロジェクトへの参加機会を積極的に増やす。また、技術の証明となる検定取得や、専門職への内定獲得のための技術力の底上げを図るため、カリキュラムの再構築に取り組む。

③ 特記事項

b. ファッションビジネス科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 3 ② 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1

・ 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1

① 課題

就職率の低迷が課題。目的意識の低い学生がアパレル業界以外の職種を希望し、アルバイトの就労にとどまるケースもあり、キャリア形成の面で課題が残る。

② 今後の改善方策

職種や分野の選択肢を広げることによって就職率の向上を図ってきたが、一方でアパレル業界以外の職種にアルバイトや契約社員として就労するケースも増えてしまったため、キャリア形成に対する再教育を実施するとともに、就職先の選択についても細やかな指導を行っていく。

③ 特記事項

c. ブライダル科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 2 1

① 課題

令和6年度は対人関係を要因とした退学者が多く発生。特に1年次の退学防止策の強化が喫緊の課題

② 今後の改善方策

変化する学生の価値観を受容し、楽しく通学できる環境作りや授業内容の工夫を図る。教員間で情報共有を徹底し、早期に把握・支援できる体制を強化することで退学防止につなげる。

③ 特記事項

R6 年度サービス接遇実務検定 団体優秀賞 受賞  
 サービス接遇実務検定準一級 69 名合格(合格率 100%)  
 ブライダルコーディネーター技能検定(国家検定) 昨年度に引き続き 2 級 2 名合格(合格率 100%)

d. ビューティーコーディネーター科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 ③ 2 1

① 課題

卒業後のキャリア形成を意識した取り組みが求められている中、学修成果が与える効果について把し、どう活用していくかが課題。就業意識の向上に繋がるよう取り組んでいく必要がある。

② 今後の改善方策

早期面談の実施と教職員間での情報共有体制を強化。卒業生によるトークセッションや就職説明会等キャリア教育を計画的に実施。職業観の醸成と学修の動機づけを図り、モチベーション維持に繋げる。

③ 特記事項

e. 美容師科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 3 ② 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 ③ 2 1

① 課題

美容師国家試験合格率の向上と維持。資格取得に向けたモチベーション維持。

② 今後の改善方策

2年間を通して、学生自身が成長を感じながら楽しく学校生活を送ることができるような環境を整備する。学年を超えた交流を積極的に実施し、近い未来をリアルに捉えることができる機会を多く設ける。

③ 特記事項

f. ヘアメイク・アイデザイン科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか ※1	4 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 (3) 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 (3) 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。 ※2	4 3 2 1

注)新設学科のため、※1、※2については整備中

① 課題

美容師国家試験合格率 95%以上、業界内定率 100%。実習先や就職先の新規開拓。

② 今後の改善方策

計画的な試験対策の実施と継続。産学連携先を開拓し授業やセミナーを実施することで、現場とのギャップを少なくし、就職に対する不安解消やモチベーション維持を図る。資格取得の重要性を理解することで、安定した合格率と退学防止に繋げていく。

③ 特記事項

(6). 学生支援

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・ 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	(4) 3 2 1
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	(4) 3 2 1
・ 保護者と適切に連携しているか	(4) 3 2 1
・ 卒業生への支援体制はあるか	(4) 3 2 1
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 (3) 2 1
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	(4) 3 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	(4) 3 2 1

- ① 課題  
 { 卒業生への連絡ツールが整備されておらず、個別対応に終始するなど卒業生への支援が十分に行われていない。 }
- ② 今後の改善方策  
 { 年度末に、学園全体で LINE を使用した連絡ツールの整備が行われ、卒業生への支援体制が確立された。 }
- ③ 特記事項  
 { }

(7). 学生の受入れ募集

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4 3 2 1
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 3 2 1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4 3 2 1

- ① 課題  
 { 遠方の志願者に対して、オンラインも活用し、対面を併用しながら進学に必要な情報提供ができたが、リアルタイムなイベント中継はできておらず、動画の視聴のみとなっている。 }
- ② 今後の改善方策  
 { 引き続き、進学に必要な情報提供を Web や SNS、対面やオンラインでのオープンキャンパスなどを通じて発信していく。イベントについては予算等も鑑みながらリアルタイム配信について検討する。 }
- ③ 特記事項  
 { }

(8). 財務

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3 準備中・整備中:2、未着手・未整備:1
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 3 2 1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 3 2 1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4 3 2 1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4 3 2 1

- ① 課題  
 { 特になし }
- ② 今後の改善方策  
 { }

③ 特記事項

財務状況は、安定しており、継続的な学校運営には問題がない状況である。

(9). 法令等の遵守

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
・ 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 ③ 2 1
・ 自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

① 課題

平成 25 年度より自己評価を実施し、学校関係者評価委員会等で意見を聴取。改善に努めているが、校舎・設備・環境に関わる課題や、学生の経済支援については制約もあり、年度内や本校のみの施策では解決しにくいものがある。

② 今後の改善方策

校舎の環境整備については、令和 2 年度より、3 か年計画で充実を図っており、令和 5 年度の整備完了を以て一旦完了となった。より良い学習環境整備等について引き続き検討を行う。

③ 特記事項

自己評価、学校関係者評価委員会の議事録は、ホームページ上で公開している。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
・ 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
・ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1

① 課題

昨年に引き続き、地元プロリーグや地域イベントの活動には参加したが、サークル活動や学科の学びを活かして、社会貢献や地域貢献の活動の企画から実行までを継続的に行うことが課題である。

② 今後の改善方策

企業と連携した計画的な地域イベントへの参加や、ボランティア活動、社会貢献の取り組みを実行することで、地域貢献活動に対するマインドを醸成する仕組みを作る。

③ 特記事項

以上